

Next Level

第 16 期 OB 柳原 慎平

某 Sler での労働も 2 年目を迎えたため、自動昇格となりました。昇格をすると基本給が少し上がるという旨みの一方で、業務において求められるレベルは上がるというコスパの悪化が起こります。「甘えてるな。まだまだ成長してもらおう？」と先輩社員に尻を叩かれて働く毎日です。この 1 年間の業務は、某 X 社様向け ERP システム構築プロジェクトではシステム本稼働を経験し、また、某 Y 社様向け販管システム構築プロジェクトではマネジメント業務を経験するなど、低レベルではあるものの、業務知識を習得できていると実感します。また、営業職の人とも盃を交わす機会が増え、SE 職でも社内営業が重要だと感じます。

某 Sler では、完全フレックス勤務、テレワーク、リモート会議など場所と時間を選ばない働き方が定着しつつありますが、他方、育成される側にとっては業務知識を得るには、やはりオフラインが一番だと思ってしまいます。少なくとも私はベテラン社員の横に付いて、指導されたり、あるいは、見て学んだりして、SE 職としての業務でのあるべき論、現実案、やってはいけないことを学んできました。例の感染症の流行は落ち着いたり激しくなったりを繰り返してはいますが、オフラインとオンラインを合理的に切り替えることで、今後も生産性と成長を極大化できるような世の中であってほしいと願います。

我々 16 期生のゼミ生時代を振り返ると、当時はオンライン活動という発想が無かったので、ほぼ完全にオフライン活動でした。三田のグル学を占拠しての活動には様々な思い出がありますが、オンライン活動だと、自宅でディスカッションした後、そのまま寝て、起きてすぐ活動できるので、もう少し楽に活動できたのではないかと、思ってしまうシチュエーションを多々思い浮かべます。(しかし、16 期生の性質上、オンライン活動では結局効率が悪いなどと言って、結局グル学に集まって活動していたかもしれませんが。)

他方、りさ(第 16 期 OG)とお邪魔した、対 2 年生向けの OB・OG 講演会時点では、例の感染症のせいで 19 期生は、オフラインでしかお互いにほとんど顔を合わせたことが無いし、加えて、小野先生とも画面越しでしかほとんど会ったことが無いと聞いて、想像すればわかることではありながら、少し驚いてしまいました。2020 年よりも感染状況が悪化し、活動がしにくい状況下であっても 19 期生全員で仲良く一致団結して取り組み、小野ゼミ生として三田論を協力して完成させていることには尊敬の念を抱いています。

小野ゼミは第 20 期生を(恐らくは)迎えます。2022 年がどんな年になるかはわかりませんが、オフライン活動とオンライン活動を柔軟に切り替えられる世の中であらんことを願います。ゼミ活動を通じて体得する言語化しがたい経験が、卒業後の人生に生きてくると実感しています。オンラインでも三田論・卒論は完成するし、知識も身に付くのかもしれません。しかし、本ゼミという「場」と、その緊張感の中での経験を未来の小野ゼミ生にも感じてほしい、とふと考えました。(世間はこういう OB を老害と呼びます。)